

昨日の自分に負けない自分でいられるように

前へ

令和8年
4月20日(月)
第1号

4月13日(月)に3学年揃って、今年度初めての全校朝会が行われました。

2.3年生の皆さんには昨年の大泉西中学校より成長していくために今年度、気持ちのスイッチを入れるタイミングを「体育館に入る時」としスイッチを切るタイミングを「体育館から出る」までとしていくことを目標としていきたいと思います。

その言葉に多くの人が心と行動で応えてくれ、昨年度の自分たちよりも良い自分たちで全校朝会を始めることができました。良いスタートが切れたと思います。

【このおたよりについて】

今年度、生活指導を担当することになった私、齋藤 元が生徒の皆さんにお伝えたいことを中心に書いています。私が皆さんにお話できるチャンスが基本的に「始業式」「終業式」の2回しかないのでおたよりというかたちで伝えていけたらと思っています。

【「前へ」について】

この言葉は、ある大学のラグビー部の監督がスローガンのようにチームの選手に伝え続けていた言葉です。その一文が次の文章です。

前へ

とにかく“前へ”。

ためらわずに“前へ”進め。

それはつらく長い道のりかもしれないが、

ゴールへの最も近い道であると私は確信している。

昨日の自分よりも少しでもよい今日の自分でいてほしいという願いを込めてこのおたよりの名前は「前へ」にしました。

【2.3年生に始業式で伝えたこと】

始業式の時に2.3年生には直接伝えることができましたが、1年生には伝えられていないので、このおたよりで伝えたいと思います。

私が願うことはこの大泉西中学校がより良い学校になってほしいということです。良い学校とは何か。いろいろな観点があると思いますが、私が考える大きな要素のひとつは「そこにいる人たちが良い人である」ということです。では良い人になるにはどうしたらよいのでしょうか。まず次の2つを心掛け行動していくことが大切だと思っています。

☆ やればできることは確実に結果を残していく。

☆ 昨日の自分に負けない今日の自分でいられるように努力する。

人にはやればできることと、努力したからといって必ずしも良い結果が出せないことの2種類のことがあると思います。

例えば、頑張ってクラス全員が50m走を7秒台で走る。頑張ってクラス全員が数学のテストで100点を取る。などは頑張ったとして達成できないことかもしれません。それに比べて、しっかり座る、人の話をしっかりと聞く、「前へならえ」の時に手を肩の高さに上げるなどは、特別な事情がある人は別として、ほとんどの人にとってやればできることだと思います。このように、やればできることは確実に結果を残していくことが、自分を前に進めていく大切な心構えだと思います。

二つ目は昨日まで〇〇ができていたのに今日はできないということが多いと、自分を前へ進めることができない、またはそのスピードがとても遅くなってしまふなど、3年間で大きく成長すべき中学校時代を過ごす皆さんにとっては良いことではありません。

例えば、「以前は静かに素早く整列できていたのに、今は無駄な話声が多くなかなか整列できない」などやればできていたことができなくなっていってしまうということがそれに該当すると思います。このことに関しては過去の偉人もこのような言葉を残しています。

「他人が自分より優れていたとしても、それは恥ではない。しかし、去年の自分より今年の自分が優れていないのは立派な恥だ」 ジョン ラボック（銀行家、政治家）

とかく人と比べて、劣っているとか優れているとか感じやすい年代かもしれません。そのことを自分を成長させるためのモチベーションにすることもあるかもしれません。しかし周囲に影響されず自分を成長させていくためには過去の自分に負けないということとはとても大切な心構えの一つだと思います。

3学年揃って令和8年度がスタートしました。大泉西中学校がみんなにとって自慢のできる学校であるようにみんなで前を向いて進んでいきましょう。

(文責 齋藤 元)

